

# 春山山行報告

(47年度)

北山人尾根川劔岳

1973 3/21 ~ 4/3

信州大学山岳会

併那松本長野山岳部

~~1973~~

剣岳山行が終り、もう又大分過ぎ去  
っていった。しかし今もわたらの脳裏に鮮  
烈な印象をこの山行は残して去った。終り  
て何らかの形で各人の中に一つの糧として  
役立つことと期待する。

参加メンバーは、すでに各都において  
それぞれの位置を占め活動している。又  
海外へ出掛けようとしているものもある。

各人の心の山に、今回の山行が若干なりと  
も役立つことを願うものである。

又、これから山岳部の一方向として厳冬  
期の剣岳北峰稜線に注目したいと思  
います。剣岳はすばらしい山です。

危険と困難は別々の危険は避け、困難  
には立ち向かい、これを克服せよと先人は言っ  
ています。困難が増せば危険も増すだろう。  
しかし、より困難なるものを求めたい。それには  
準備が第一であり、我々の山への情熱では  
ないだろうが。 (1973. 24 川口)

※計画及び準備段階

昨年五月に大慈から剣岳の山行に始まった積雪期剣岳周遊は、五月に予定より北谷較線を行いたという帯に変わった。レカレナがラ我々の美カヤMelibeにては時期早尚と考え、割愛長く、又トレースも比較的少ない北山人尾根を登路とし、絶平山にB.C.を設営後、じっくり構えて本峰をアタックすることにした。

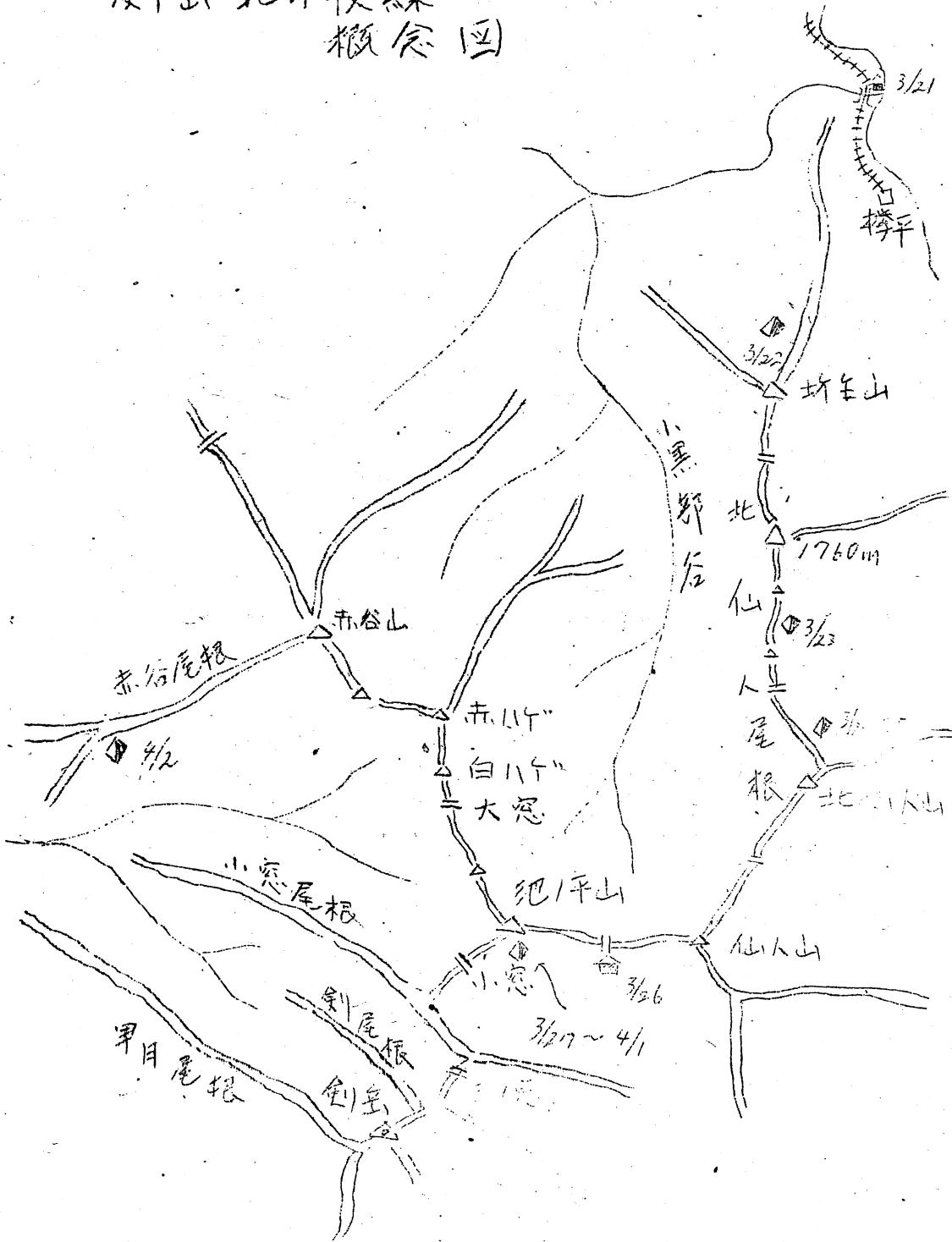
冬しミカ月初旬に、五名にてアタック期間と下山用を念め、8人11日分の食料を絶平小屋に荷上げした。又同時に構乎より北山人尾根への取付を観察し、冬しミ絶平山から赤谷山迄3名にてトレースした。

冬山も終了し新しい計画も具体化した。レカレ入山前に健康上の理由により二名が不参加となり、六名にて入山となった。

※山行を終え

当初3名で入山予定後6名になってしまったことに、ア、イ、エは、これからの部の中核となるべき者として残食であったが、バーナムの行動上から思うに、フィクスの場所が9ヶ所あったことにより6名は非常に良かった。荷上げに際しては、今期間20日にも及び当初の予定が予定よりこのことも若く、ダブルボックを各々が復察に、この荷上げは必要だったと思われた。構乎付上は、積雪が存じ、雪崩の危険な絶平山迄はトレースしていったことによる。

# 劍岳北ヶ嶺線 概念圖



参加 Member

2. 7/1 隆 (農3) 高橋 雄二 (農3)  
 三井 和夫 (人23) 藤松 泰一 (敬3)  
 小川 邦一 (工2) 吉田 秀樹 (人21)

※期間 3月21日 ~ 4月3日

※トレースルート

早名目一橋平一北仙人尾根一仙人山—  
 —絶1平山(B.C.)—剣糸 attack—木窓—  
 —赤谷山—赤谷尾根—馬場島—伊折

※竹駒記録

3月21日 (雨)

早名目 — 橋平 — 美山温泉 — 橋平  
 (6:30) (10:30) (11:30) (13:30)

前日松本より早名目迄入山。午ニ午ニ電車  
 の線路上を橋平目指す。黒オギ駆付迄迄は  
 トンネル内ニ電灯が有り助けられ、こ此り  
 先はヘッドラニアに頼り、黒助の平を橋平へ  
 公た有考く、崎折黒部をくぐり小黒部を  
 がら何を渡り、橋平迄。所ニ冬期  
 鉄橋を渡り、橋平迄。所ニ冬期  
 に頼み、橋平迄。所ニ冬期  
 早名目より、橋平迄。所ニ冬期  
 交ルが、橋平迄。所ニ冬期  
 数十人、橋平迄。所ニ冬期  
 です。

9月22日

(曇 後快晴)

小黒部合宿所  
(6:45)

— 夏道合線点 —  
(8:30)

— 1550m付近  
(15:20)

合宿所より鉄線と線り小黒部谷側より下ッツシツの夕  
 の雪壁を登り尾根上に出る。夏道は左正部は右に若山より  
 起休がなす。尾根上には急な雪壁に達する。1760mのピーク  
 ピークは枝を避け急な雪壁に達する。1760mのピークの下り  
 モミの枝を避け急な雪壁に達する。1760mのピークの下り  
 シュと急な雪壁に達する。1760mのピークの下り  
 尾根上には急な雪壁に達する。1760mのピークの下り  
 なる平地をテントサイトとする。

3月23日

(快晴 後曇)

1550m付近下ふ  
(7:10)

— 坊生山 —  
(8:05)

— 1760mピーク —  
(12:50)

— 折尾谷乗越午前  
(14:40)

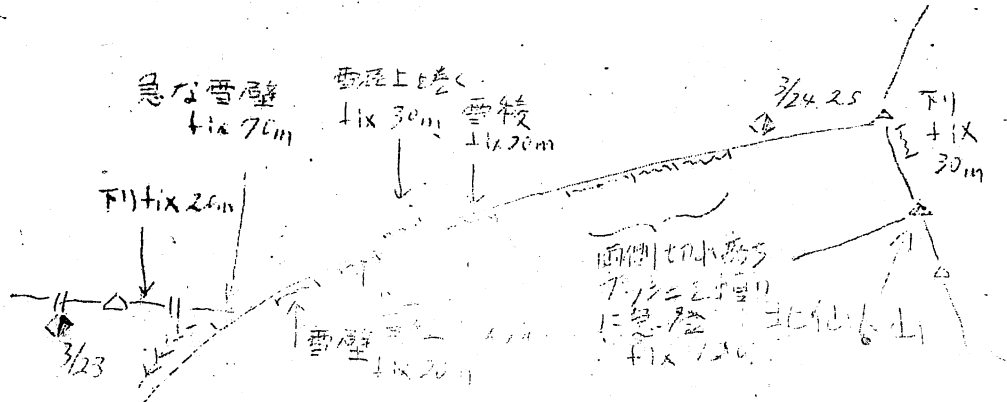
坊生山への最後の登りがあっけなく終わると底々  
 とした山頂へあり回分が眺望をさる。北山人山が青  
 々しくに感ぜられる。1760mのピークを出てない小ピーク  
 起休が多くなり1760mのピークを出て半分時頃が  
 かがった。雪壁は黒部側に木を張り出し又樹林  
 用の急裂に落ち止み若流する。1760mピークの下りで  
 急な雪壁にたどり着く。このピークの下りが若干複雑  
 になつており急な雪壁。小ピークを越え折尾谷  
 乗越の午前のコルをテント場とする。

9月24日

(雪)

下ふ。 — 折尾谷乗越 — 北仙人山手前のピーク下  
(17.10) (18.30) (19.20)

北仙人尾根中最悪部と予想される北仙人への登りである。三名がルート工作の爲先行する。折尾谷乗越への下りが一部岩後となりおりやすくす。いよいよ北仙人山より手前のピークより縦生れしており300m程の高差の急な尾根である。まず尾根への取付部分に10mフィックスする。次に壁であり所々氷化しており非常に悪い。トツツ木に助けられ2時間程を尾根上に出た。しばらく尾根をたどり急な雪壁  $1 \times 26m$ 、木登りを混えた雪壁  $1 \times 30m$ 、雪庇上  $1 \times 30m$ 、雪稜  $1 \times 20m$  と  $1 \times 17m$  で登る。尾根自体はさほど切れ込んでおらず森林内であるが重リヤックと雪壁、雪庇のため何ヶ所も  $1 \times$  する。最後の登りは  $1 \times 120m$ 、雪壁を混えた急登であり、所々岩後となり小黒谷側はスツバリ切れ落ちている。幸いトツツ木があるのでこれを頼りに杖を折り払うルートを作る。この急登を終えた所が尾台地状になっており天場とした。吹雪をであったがさすがに春ともなれば寒さをあまり感じずにルート工作ができた。



3月25日 (雪風強)

沈黙 冬型となり風強く気温低い

3月26日 (雪後曇)

T.S. — 北仙人山 — 仙人山 — 北仙人山との最低コル — 絶平小屋  
(6:30) (9:00) (12:30) (14:50)

前日の積雪で大分ラッセルがえらくなると予想  
行かばとix工作させると北仙人山午前のコルへの下  
りではixをしてあとは工作隊にトシバを付けて  
もらう屋根上は雪庇が積雪により更に荒急に折れ  
にあつて雪壁も不道徳になり苦労した。北仙人山のセ  
ークに立つと曇り晴れ間が少し見え天候は回復してさ  
た。最低コルへの下りはかなり急な雪壁の下段で強  
い山岳歩き途中ixも1ヶ所あり最低コルより  
仙人山への登りは腰迄の深い湿雪のラッセルで直  
々として進まずシンドク、シンドク、仙人山より絶  
平小屋はすぐであった。小屋は小黒沢谷側がガ  
ラシ出ており幸いにして30分程で入口が見つかり小  
屋泊りとする。荷上げた食料は野菜が腐っていた  
が他は使用できた。小屋の中で快適な一夜を過ごす

3月27日 (晴)

絶平小屋 — 絶平山 小窓迄のト工作 (14:30)  
(7:30) (10:30) (14:15)

小屋より最後の登りである相対的はずり登り  
ラッセルであり10mも登ると足が上がるが雪の  
重り雪であつて、屋根は20~30m程小窓谷側  
雪の量に驚く。ベースは絶平山のピーク  
とす。午後より二谷にて小窓迄ix工作  
残量ixが多くあり助かる2ヶ所程ix  
本程小窓迄ixがほとんどされた



3月28日

(雪風強)

沈瀬 春一番となり南風が吹き暖かい  
午後より雨やミダレに降る

3月29日

(曇 後雪)

沈瀬 池1年小屋の干木回収に行くが雪負不  
安定で雪前の危険があまうなので引き  
返す。10時頃より又ミダレに降る

3月30日

(快晴)

干木回収(池1年小屋迄) (8:15 ~ 10:50)  
(4名)

前日以来の雨で流石の干木は干すの早と化  
していき 池1年小屋迄の流石上にも小さな  
干木が落ちた。雪はかたまりのままであり回  
収はスムーズにできた。一方雪で埋まった  
1x Seil 古堀り起こしに2名が小窓迄行進  
した。

3月31日

(晴れ 後霧)

剣糸 attack 川口 藤松 小川

池1年山頂( )	—	三ノ窓	—	長次郎の口
(5.10)		(7.50)		9.05
剣糸	—	三ノ窓	—	小窓
(9.40)		(11.35)		(12.50)
				D.C. (14.50)

小窓迄のトラバースは40m/100kg Seil 使用  
上部のルンビ林雪壁からアンダーに木をたまた  
池1年の口より本峠迄はゴシテ反転スグ小  
で行く。岩壁がいがり山からな、軽のヤスで  
あった。帰りも三ノ窓迄アンダーにて帰った



fix回収 : 飯坂、小川 (6:30 ~ 8:00)

大志のフル山のfixはAttack隊が修りは登りであることと、下山用として大志付也のルート  
作業を必要があり回収した

ルート工作 : 川口、飯坂 (9.10 ~ 大志の頭 11.10 ~ 13.00)

絶1平山のpeak直下は残置fixがあり最後のフルハの  
下りに40m fix 好急な雪壁を下りフルハトラバース  
する 好急が続いていなので雪壁はクレストとしてお  
り、アイゼンが快適であった。向登の岩峰は至厚まり  
はるかには多量の雪が付着していたが途中ハーフピンと  
ニ本程打つてトラバースして越える。又、若年の身片  
の下りにもfix 20m を行った。今年の大志で農木が  
fixしたと思われる10mm径の麻がイルが折れ壊っ  
ており助かった。大志の頭迄行き大志への降り口を確  
認して引寄せた。

4月2日 (曇)

絶1平山 — 大志 — 白ハゲ — 赤ハゲと白鞍山との2ル  
(6:50) (9:25) (11:00) (12:30)

— 赤谷山 — 1563m 七ヶ午前の中地  
(13:20) (15:00)

剣先attackも無事終り、いよいよ下山である。予想  
より下りは雪は安定しており残置fixもかなりあり  
楽であった。第一の難関は絶1平山からの下りである  
が前はfixしておいたので楽に下れた。雪庇もあり  
発達しておらず深くはなかったが、前側共に切れ落ちてお  
り一瞬たりとも気を抜くことができない。大志のフル  
への下りは傾斜自体は冬山にあるわけではないが  
300m程の高差をもつ斜面となっていて、そのせいで  
恐い一歩一歩慎重に下り、最後に残置fixを利用して大  
志のフルに達した。白ハゲへの登りは白鞍山側のルニせ  
と登りフルまで最後の雪壁をfixして白ハゲの頂上

に立った。白ハ下かう赤ハ下の間の間は電の線香のため  
 後上は居て夢には手取り小黒の解は力麩の香のた  
 り出るといふ赤ハ下かう赤ハ下の解は力麩の香のた  
 以外は予想大paulyの同類と会った。赤ハ下かう赤ハ  
 ぶ初めは残り居り屋根でありトレースもあり是に  
 迄は山がらの下りもトレースを使用し難なく下りあ  
 とは所々線と存つていたり赤居屋根をむたす下り標  
 高1563m E-7の午前9時の地を現場である。

4月3日 (曇)

T.ふ — 馬場島 — 伊折 — 松本  
 (5.50) (8.00) (12.45)

橋を壊った下山日である。赤居屋根からの剣意と日  
 折面を走ったが早以に馬場島に下った。途中高橋  
 が傾斜を崩し馬場島に休みの伊折と歩くことにある。  
 いづれのように雲に集めてもラリ全道無事伊折に下山  
 した。(以上川口記)

\* 各係報告

。 装備係

別にどこもいつて目録を特徴もなく、ごく普通の研削  
 であり重量も別段考慮しなかつた。それと大きな失敗  
 はなかつた。  
 予ントレームのほうは教道也の便利さを苦天をたら  
 内フレームのほうは使の男いと思の本有。  
 fix sell については、戦艦がはがり助けられたこ  
 ともあつた量については下履がはがったようである。もち  
 ろん残置fixが存くても時雨の外なり用いたで、ほうか  
 寸分なつたと思つた年、強度的に頼りな感おるもの  
 のsumのfix sellは強度的に頼りな感おるもの  
 があり、着るにも安バをあるといつて自信はなかつた。  
 fix sellの強度的については感度的に判断しているが  
 存るべく短期間で交換して申さなければならぬ。

(三井記)

## SSSEN係

干ポに關して：生野菜が腐ったのをたこは美味的意味もあつたが酸味があつた生野菜はやはり干ポがよいことは無理であり、1か2分絞ることもう少し工夫して水分調整がうまく行けばある程度可能と思ひれる。

生野菜のかわりにワカメ切干木根がよく、ワカメ程乾して何にも使用できず、1かもうまく履べり出来るものは他にないと思ひ。

タンパク質とシメジ、ハム、ソーセージ、凍豆腐、ケース干魚かわらだが凍豆腐、ソーセージの味が好きなように思ふ。干魚はもつと多くても良かった。干魚の干し具合が悪いと左よりおいしく履べり出来るので料理の味を考慮すればもっと使用できると思ひ、あと米知存のものとしてベーコンが考えられるかどうか。

attach用の行動食が適当な分量の乾燥したワカメ、ソーセージのものばかりではお腹が空くとも履べり気がない。シメジ、ハム、ソーセージ、凍豆腐、干魚、おろし、良いように思ひ。肉体的疲労より精神的緊張による疲弊の大きい時は味の強い物、果物、水分が多量に含み込まれたものよりも従来のビスケット等類は良くない。

入山は慎重さを考慮せよ、新鮮な野菜を食事にしたいものだが  
(西郷 記)



・気象係

春山の恐しさを聞かされつつも冬山との違いを感じさせられた山行であった。前半は一般的に春山の気象変化を見せたが、後半、春一番、二番、葉桜柳雨という、この時期には珍しい天候に因り、徹夜毎天気変化を見せ、しばしば予報をはずされた。——と言ふよりもむしろ見込みつかぬ天候もあり、改めて予報の難しさを感じた。それから今回試み的に気圧変動図を書いてみたが、早稲田気圧配置下では使えるようですが、その他では使えないかも知れない。

3月21・22日 ④→④ ④→④ ④→④  
夜半から雨(中央に因り)。夕方から翌朝にかけて雪がパラツいた。これは、前線通過後の典型的な冬型によるものらしい。雪の降り方は春山らしい。  
22日は雪も山からの風にもよっていたが回復しつつあった。

3月23日 ④→④  
移動高の為④。風候には全天高天候におおわれるが再びCのみ  
の天気回復してしまつた。午前中は日本海のLの影響。午後の回復は東シベリアにあるLの接近による1時の低気圧であったと推  
われる。大陸にあるLに吹き出すH(らしい)。春先のL(日本海・太平洋  
沿岸)は冬型を起しやすき事ほど、荒れる可能性は充分あった。

3月24日 ④→風雪  
冬型の気圧配置となる。風候は明けはげしくなる。大陸のHのまわり  
北九州あたりの気圧が大きく下がり曇気がおちてきている事を示  
している。黒部pもしごかれ凍傷を食うものも出たそうである。

3月25・26日 風雪→④→④  
この2日間のHの動きは非常に遅く、両日にかけて④。気温も25  
日朝12:00に-15、風2時に-13℃と、26日それと似た気温と冬山  
並みに下る。但し26日夜には雪も降り出し、小鳥(或は平)で遊  
して(らしい)という願ひにきかかぬ。4日間は晴れそうである。

3月27日 ④  
雪のうち風強いが④。B,C設置後は風1:00に-8℃にもかかわ  
らぬ風強くホカホカ。Bは夕方にははやくもCsにおおわれ始める。

3月28日 ④→④ 風強し  
春一番。おそれまじりの雪。急降有因に不安となる。H-Lの乱舞、  
前線がゆれている。これから予報にはやまさられる。

3月29日 ④→④→④  
朝まで回収に出かけるが板氷がタレ危険があり中止。乱天候  
が重く立ちこめその後雨降り始める。夕方から雪に変わったのは、富  
山の風向がNでもあり(とある)Hの吹き出し(弱山)に因るもの  
らしい。(翌日は0に落ちた)。

3月30日 ○

南方には雲の存在を示す雲があった。慎重を期して(雪の状態)  
アタックせず待機回収のみ。

3月31日 ◎

午前中1時雨がパラツクが雪は高い。1回目のアタックをした。  
兼程梅雨の影響です。まじしい(雨)天気が続く。

4月1日 ①

夜明け前がかすっていたがアタックには良い日となる。高橋さんの刺  
からの音がめと(い)。富士の風向がNでありHの張り出しが始  
た。  
上大陸

4月2日 ◎ 下ラツキ → ◎

天気が晴々と思、たうはずれ。雲は富士山側厚く異側は青空さえ見  
えていた。夕方からガス

4月3日 ◎

下は雲海、上は乱月雲。ガスをぬけ馬場島では曇りがさしていた。

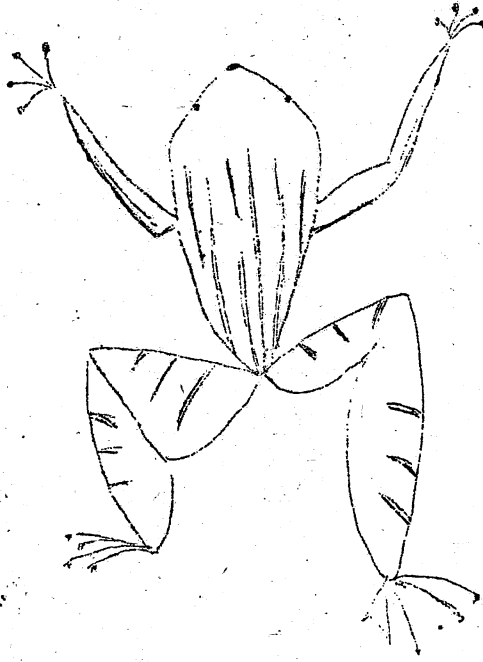
天気図とらず。

以上 記録のみに終ってしまいました。刺の天候というものはつかめま  
せんでしたが今後の参考と存じたい(い)ものです。

(記音)

MEMO





カエルのカシカ

これは魚のカシカではなく、  
カエルのカシカです。  
カシカは雄は繁吹の音が  
する岩に、オボラーの吸盤  
で張りついていて、この吸  
盤を研削して新しい岩登りの  
道具とさせて誰を登らせた

おしるくうっとうしい梅雨時です、  
鳥山の報告書がよかったです。  
小糸集積区では坊室尾根もあり2199m  
ピークが坊室山となつています。1ヶ所  
古い記録では1667mピークが坊室山であり2199m  
ピークは北仙人山となり、尾根は北仙人尾根と  
なっています。山の形のとがらいつても後者カシカは  
と思われ、その北仙人尾根と呼ばれた。(記録係)

昭和47年度后山報告書

発行 信州大学山岳会

編集 大坪那山岳部

印刷 大松孝山岳部